

鹿児島の昆虫 65

が
おもして蛾 その3

昆虫担当 中峯 敦子

今回の企画展では 1,600 種余りの蛾を展示しました。これまで、これほどたくさんの蛾を一堂に展示することがあったらどうかと考えると、企画者として貴重な体験ができたと思っています。今回は標本箱を眺めていると気づく「翅の色」と「危ない蛾」のお話から種の多様性を支える蛾の生き残り作戦についてお話したいと思います。

(タイトルの「おもしてが」は鹿児島方言で「面白いね。」という意味です。)

Q：なぜ蛾は地味なの？

A：蛾は、生きのびるためにあえて「地味」になったのです。

蛾の多くは夜に活動して繁栄してきました。なぜ蛾たちは夜を選んだのでしょうか。

それは彼らにとって夜の方が安全だったからです。

明るい昼間には、彼らを好んで食べる「鳥」などの敵がいます。外敵の目から逃れて、安全に過ごすために、蛾は木の葉や木の皮、岩やコケに似せてうまくかくれることができる色や模様をもつようになりました。

また夜行性の彼らには、夜、どんなに派手な色も模様もはっきりと見る事ができないので、目を引く鮮やかな体色が必要ありませんでした。

蛾が「地味」になったのは夜に活動し、昼は身をひそめる生活から編み出された作戦なのです。

また、アケビコノハのように目玉模様をもったりスカシバの仲間のようにハチをまねたりして、敵を警戒する蛾もいます。



ハチに似るコスカシバ

このように、蛾の生き残り作戦には物や生き物に似せる「擬態（ぎたい）」が大きく関係しています。蛾が 2 億年もの間生きぬいてこられたのは擬態の能力に極めて優れ、「地味」な姿を手に入れたからなのです。

Q：ドクガにはみんな毒があるの？

A：人を刺して害を与える蛾はわずかです。

右の写真は、ドクガ科のカシワマイマイというガの幼虫です。図鑑を開くと「ドクガ科」という 50 種ぐらいのグループがあります。それ



らにすべて毒があると思っている方がいますが、臭くないカメムシがいるように、一部の蛾に気をつければこわがる必要はありません。

一般の方に庭木剪定等で気をつけていただきたいのは下記の 9 種類です。

ドクガ・チャドクガ・モンシロドクガ・キドクガ・ゴマフリドクガ・サカグチドクガ・フタホシドクガ・マガリキドクガ・ニワトコドクガ

彼らは幼虫時から毒針毛をもち、身を守っています。また成虫になる時、繭に残る幼虫時代の毒針毛を自分のからだにこすりつけて飛び出しますので、成虫にも気をつける必要があります。

毒針毛をもつ幼虫や成虫に触れると、強い痛みと激しいかゆみ、炎症を起こします。また微細な毒針毛は目で見ることが難しく、かけばかくほど皮膚上で広がったりくい込んだりしてしまいます。刺されたら速やかに流水で流すか粘着テープで毒針毛を取り除き、患部が広がらないようにします。

なおイラガ科、カレハガ科、ヒトリガ科、マダラガ科の一部にも幼虫に毒針毛をもつものがありますが、こちらは成虫まで毒針毛をもつものはいません。